

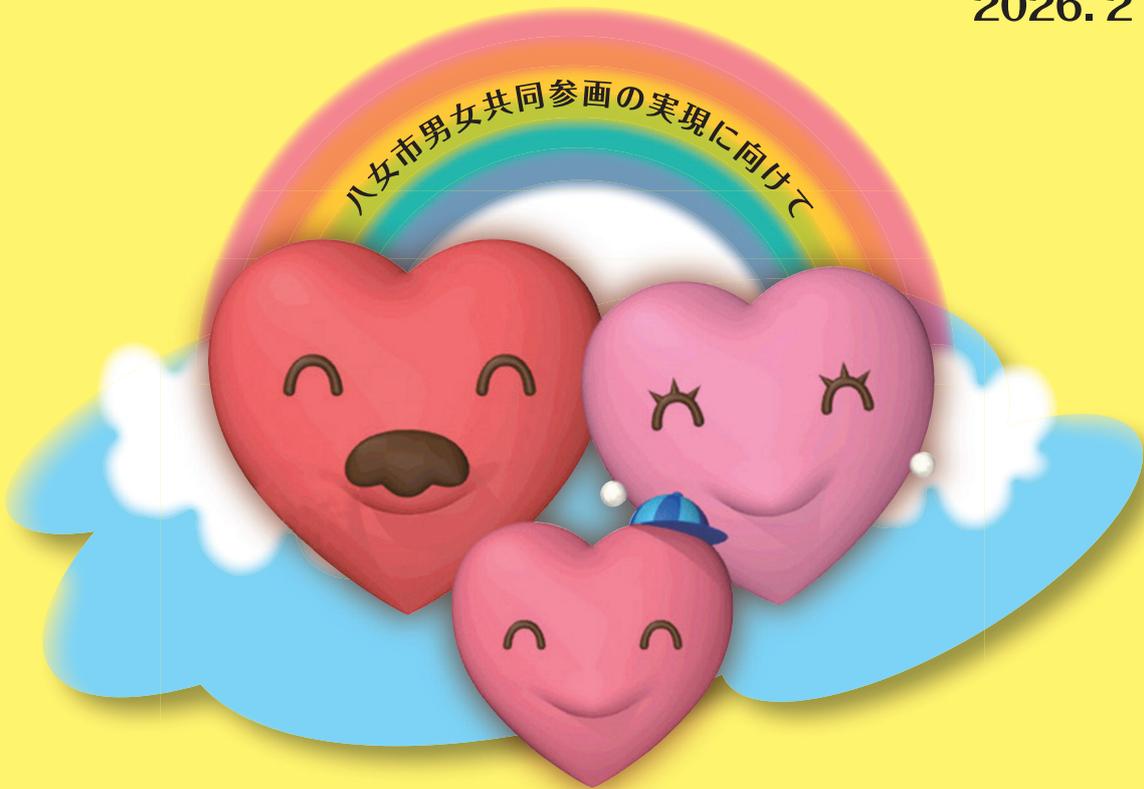


個性が輝く まちが輝く

とっぎゃざー

みんな仲良く一緒に

2026. 2. 第34号



よかひとりレー

緒方鮎美さん（黒木町）にインタビューしました！…………… 2～3

☆男女共同参画推進まちづくり団体活動報告・編集後記…………… 4～7



情報誌「とっぎゃざー」は、男女ともに個性と能力が十分に発揮できる八女市を願って名付けました。

発行：こらぼれーと*（八女市男女共同参画情報誌編集委員会）
八女市 人権・同和政策・男女共同参画推進課 ☎0943-23-1314

*こらぼれーと（共同）
情報誌を編集するメンバーのグループ名です。よろしくお願ひします。

誰でも、どこでも、自分らしく



介護福祉士

レクリエーション公認指導者

緒方 鮎美さん



プロフィール

黒木町生まれ、黒木町育ち。介護福祉士、レクリエーション公認指導者。介護老人保健施設、グループホーム、デイサービスで25年介護スタッフとして従事。現在はタイヨードー薬局黒木店で、日々お薬について学びながら勤務中。2025年4月より、歌って踊れる介護福祉士・看護師・理学療法士の5人組からなるエンタメ系ボランティア団体を立ち上げ、ラジオ体操を推進。また同年10月より、介護保険外サービスを開業。

※介護保険外サービスとは：介護保険では対応できない「ちょっとした困りごと」をお手伝いするサービス。病院や買い物への付き添い、掃除や片づけ、趣味や外出のサポートなど、日常生活の中で「少し手を貸してほしい」ときに利用できます。介護保険のような手続きが不要で、自由に利用できるのが特徴です。



— 起業したきっかけを教えてください。

介護福祉士として25年間たくさんの方々のケアに携わってきました。その中でずっと感じていたのは「もっと一人ひとりに寄り添った支援がしたい」という想いでした。ここ1年、個人での買い物代行や話し相手のボランティア活動、また薬局での勤務を通じて、薬の飲み間違いをしてしまう高齢の患者さんや、薬局まで取りに行けない方が沢山いらっしゃることに気がされました。

また、今年7月に、90歳で

現役ぶどう農家だった祖母が作業中に熱中症で亡くなりました。元氣だった祖母に何もしてあげられなかった後悔と、「まだまだ支援を必要としている人がいる」「困っている方の力になりたい！」と強く感じ、両親に相談したところ「地域貢献になる、よかこつぞ！頑張ってみらんか！」と応援してくれ、開業を決意しました。

— 事業を運営する中での男女共同参画、働きやすい職場環境についての意見を聞かせてください。

男女や立場に関係なく、意見



エンタメ系ボランティア団体の仲間たち



ラジオ体操の様子



応援してくれる家族

を言い合える職場づくりを大切にしています。それぞれが持つ「得意」や「良さ」を活かした役割を担い、お互いを支え合える関係でありたいと思っています。一人ひとりが安心して意見を высせる環境が、利用者さまへの温かい支援につながると感じています。

——職場や家庭での協働について、どう思われますか？

ひとり親として子育てをしながら、薬局の仕事と事業運営の

ダブルワークをしています。子どもたちは小さい頃から自然と家事を手伝ってくれていますが、実家にも週に一度は顔を出し、両親に事業の相談に乗ってもらったり、子どもが体調を崩した時には看病をお願いしたりと、家族に支えられていることに日々感謝しています。家庭でも職場でも「助け合い」と「感謝の気持ち」を大切にしています。

——仕事と家庭の両立について、どのようにお考えですか？

仕事と家庭の両立は簡単ではありません。周囲の方々の協力のおかげで続けることができている。忙しい中でも「今できることを丁寧」に心かけ、仕事の時間は集中して、家庭では子どもたちとの時間を大切にしています。両立の中で生まれる気付きや学びが、仕事にも良い影響を与えてくれていると感じています。

——仕事や家庭に頑張る方、これから将来を考える方へメッセージをお願いします。

私が大切にしている言葉は、「後悔するな、今を生きる」です。思うようにいかない日もありますが、その時々になんげ懸命向き合うことで、きっと未来につながっていくと思います。どんな経験も無駄ではなく、自分らしく進む力になります。焦らず、自分のペースで、今を大切に歩んでほしいです。

各団体活動報告

上陽町男女共同参画推進委員会

10月19日(日) 於：上陽公民館

つながる防災ひろば

柴尾 悠

当委員会では、防災を3カ年のテーマに据え、3年目の取り組みとして、「つながる防災ひろば」を開催いたしました。

今回は重要なトピックとして、地域外の講師に依頼するのはなく、身近な上陽町内の防災士、八女消防本部上陽分署、八女市消防団上陽支団の方々にご協力をいただきました。

骨折時の段ボール固定法やお餅が喉に詰まった時の対処法など頻度の高い応急手当の実践に加え、新聞紙スリッパやジーパンを使ったバッグ作りなど、身近なもので身近な人と助け合う体験を行いました。さらに、昨年講師とともに実践したバッククッキング（ポリ袋での炊飯）等非常食試食を、今年自分たちで復習しました。教わるだけでなく、自ら手を動かし確認することで、災害時に役立つ技術としてしっかりと定着させることができました。

また、「上陽こども、おとな食堂（旧上陽こども食堂）」にも同日開催としてご協力いただいたことで、多くの子どもたちが参加するアットホームな場となりました。地域の人がつながること、災害に対する「不安感」を、防災による「安心感」に変える素晴らしいイベントとなりました。

3年間の活動を通じて、防災活動における男女共同参画の視点の重要性を再確認するとともに、地域の絆を深めることができました。今後もこの経験を活かし、安心して暮らせるまちづくりに貢献していきたいと思えます。



たちはな男女まちづくり委員会

10月9日(木) 於：株式会社資生堂久留米工場

誰もが自分らしく！

古賀奈穂

参加者18名で視察研修を行いました。工場では「美の循環」をテーマにプロジェクトショウマッピングを使った説明やIoT技術を取り入れた最先端のモノづくりを見学しました。

資生堂は、早くから女性の子育て支援やキャリア形成、ワークライフバランスを推進してきた企業です。昨今はジェンダー平等、自分らしく生きることができ社会的実現を目指されています。以前は化粧品は女性のものであるというイメージが強かったと思いますが、今は男性の美容意識も高く、質や製品にこだわりの持つ方が増えてきています。また、化粧品は自分を表現するアイテムでもあるので、性別の枠にとらわれず個性を重んじることを大切にしているそうです。製品作りのお話を伺って私自身、まだまだ心の奥底で「〇〇らしく」といった性別の枠から抜けきれないのでは？と考えさせられました。誰もが自分らしくあることが当たり前であるために、個性や多様性への理解をより深めることができました。



9月18日(木)
於：おりなす八女研修棟調理室

男子厨房に入ろう(第20弾)

西村直樹

男性10名(役員3名)計13名の参加があり、ハッピーキッチンの方々の指導で「水煮大豆のあらびき風ハンバーグ」や「手作り梅ヶ枝餅」など4品を作りました。参加者からは「次回も参加したい」と好評でした。例年9月と1月に開催しています。興味のある方はぜひご参加ください。



11月4日(火) 於：八女市議会全員協議会室
市議会との意見交換会

八女市各分野のジェンダー平等と次世代育成

西村直樹

総務文教・厚生・建設経済の各常任委員から9名の議員と、ネットワークやめ会員を中心に10名が出席しました。兵庫県豊岡市の事例が話題にあがり、八女市も若い女性が就職先が無いなどの理由で地元に戻ってこない現状が認識されました。その他、民生委員は女性が増えている現状はあるものの、行政区長、農業委員では少ないことが話題になりました。特に農業委員は選任方法など知らないことも多くあり、ネットワークやめの活動として勉強会など行っていく必要性があると考えました。



11月22日(土) 於：クロアバープラザ
福岡県ジェンダーフォーラム2025

あたり前を見直そう！ きみが輝く未来へ

西村直樹

役員を中心に4名で参加し、午前中は「男女共同参画社会をめざして」意思決定の場に多様な視点を「」をテーマに古賀市市長の講演に参加しました。男性職員の育児休業取得率は100%、昨年は平均取得日数44日と取得率から取得日数の増加に目標交換しています。さらに驚いたのは小中学校の夏休みの日数。10年前は39日だったのが昨年は25日間。6時間授業を5時間に減らすことで教員の残業を減らし、生徒の集中力アップを計っています。高校生による政策提言や生理の貧困問題など女性や子ども対策に取り組むパワーあふれる講演でした。午後からはお笑いタレントの庄司智春さんのトークショー。家事・子育ての話を楽しく聞かせてもらいました。



11月29日(土) 於：星野支所 大集会室

「野菜ソムリエプロが伝えたい!!」 「トマトの輝ちゃん」と考える防災対策」 〜簡単冷凍レシピも紹介〜

江頭大貴

2023年の第12回野菜ソムリエアワードで約7万人の野菜ソムリエの頂点に輝いた貝田輝子さんを招き、講演会が開催されました。トマト農家を営む貝田さんは、野菜ソムリエの資格や野菜に関する様々な資格を取得後、熊本地震での女性被災者の声をきっかけに防災士の資格も取得されています。

講演では、防災対策として、個人の防災行動計画「マイ・タイムライン」や備蓄品の準備、災害時に役立つ野菜の冷凍保存方法について具体的な事例を交えて、お話しいただきました。また、熊本地震や能登半島地震で被災地を訪れた経験を通じて、流通が滞ることによる食材不足の問題や、災害時の食の確保の困難さを実体験を交えて教えていただきました。貝田さんからは、日頃から防災対策と食材の保存を行い、日常的に食べて買い足す「ローリングストック法」を繰り返して、災害時の食に備えてください。とのことでした。いつ災害が発生するかわからない今の時代において、防災対策と食材保存の重要性を感じる貴重な機会となりました。

野菜や果物でアートをつくるベジフルフラワーアーティストでもある貝田さん。講演会場に食べられる美しい作品を展示いただきました。



八女市男女共同参画講演会

9月27日(土) 於：おりなす八女

「誰もがこのまちで暮らし続けたい」と 「考える地域に」を聞いて

西村直樹

講師の大崎麻子さんは、全国に先駆けジェンダーギャップ解消に官民連携で取り組んだ兵庫県豊岡市を例にあげ講演。いったん大学進学などで豊岡市を出た女性は戻ってこない。女性の仕事は固定化し、個性が人事に反映しない。女性や子どもへの意見が反映しない自治体は若者が減り高齢化が進んでいく：八女市も同様だと感じました。

第2部のパネルディスカッションはコーディネーターに狩野啓子さん、講師の大崎麻子さん、箕原八女市長、大学生1名、高校生2名の6名で行われました。短時間でしたが、学生のしっかりした意見が聞けたのは貴重でした。

その他、久留米市と久留米大学との協働で作成された「ジェンダーかるた」の展示もあり、全部のかるたを見てみたいと思いました。

編集後記



「よかひとリレー」で介護保険外サービスを立ち上げた緒方さんの「一人ひとりに寄り添った支援がしたい」という温かい想いに触れました。

また、各団体の活動報告では、防災への男女共同参画の視点や自分らしさを尊重する企業視察、男性の家事参画など、多岐にわたる取り組みをご紹介しました。

誰もが個性と能力を十分に発揮し、「このまちで暮らし続けたい」と思える地域であるために、身近なところから助け合い、感謝の気持ちを大切にすること、そして、「今できることを丁寧に」という意識で取り組むことの大切さを感じました。

すべての経験は、きっと自分らしく進む力になります。焦らず、自分のペースで、この瞬間を大切に歩いていきましょう。

小川 栄一